

埼玉本社工場跡地再開発について社長メッセージ

当社は2008年秋のリーマンショックの直撃を受け、2009年8月10日に構造改革計画を発表し、2009年12月に埼玉本社の鑄鋼工場を三重工場に集約しました。構造改革は順調に進捗し、三重工場のさらなる生産性向上に向け第二次構造改革を実施中です。

また、埼玉本社の鑄鋼工場跡地の再開発につきましても検討を重ねてまいりました。全体敷地約1万2千坪のうち1900坪を営業を含む本社部門、研究部門及び素形材部作業場の事業用地として残し、残り約1万坪を再開発することを計画いたしました。土地汚染状況を調査した結果、主にフッ素に浅く広く汚染されていることが判明いたしました。

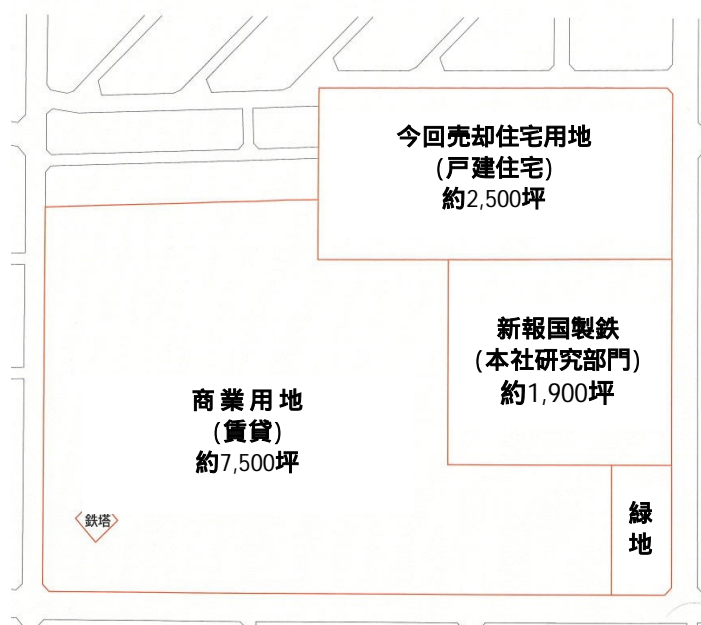
土壌改良には多額の費用がかかるため、北側2500坪を住宅用地として売却し、残り7500坪は安定的収益を得るため商業用地として賃貸することといたしました。

再開発のコンセプトとして、「川越市都市計画マスタープラン」を尊重し、周辺住宅との調和と環境の重視を掲げました。当社事業地を含め全体の象徴木を『花ミズキ』とし、一帯を『花ミズキビレッジ(仮称)』花と緑の街を目指しました。

土地売却につきましては、このようなコンセプトを理解いただき、戸建て住宅用地として大和ハウス工業株式会社様に売却が決まりました。売却価格は土壌改良費を賄うことができました。今後、賃貸用地として考えております商業用地に関しましても、土壌改良を早急に進め、開発コンセプトに見合う優良デベロッパーを誘致してまいります。また、当社事業用地につきましても、売却住宅用地と門等エクステリアを調和させ、内部も『花ミズキ』を中心とした緑化を進め、研究開発型企业にふさわしい本社事業所にしてまいります。

そして1万2千坪の再開発区域が『花ミズキ』の街並みとして、地域のみなさま、当社の取引先のみなさまに愛される街にしてまいります。

< 活用イメージ図 >



当社の新しい顔

当社の新しい門は、永らく当社の生産を支えてきた設備の一部と、現在の生産品をデザインに取り入れ、過去から現在へ受け継がれる、「ものづくりの伝統」を表現してまいります。

また、象徴木である「ハナミズキ」を植栽し、近隣と調和した事業所を目指しております。



当社の「ものづくりの伝統」をモチーフとし、象徴木である「花ミズキ」を植樹した新門
(H23年秋竣工予定)

保存緑地

当社敷地内の緑地は、川越市の保存樹木である、シイ、ムクノキ、スギなどの古木、大木が生い茂り、「鎮守の森」のようなたたずまいを残しています

また、森の中に入りますと竹林が広がり、純日本風な風光を見ることができます。

